

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度	<p>&lt;上位目標&gt;  支援対象となる協同組合がトリンコマレ島の主要産物である米および牛乳の加工・販売を行える総合的な事業運営をできるようになり、また安全な野菜や果物を含めた農作物・乳製品の提供や情報発信によって地域の消費者と生産者の健康・栄養改善についての意識が高まることで、将来的な地産地消を目指した地域社会の基盤ができる。</p> <p>2年事業の2年目にあたる今年度は、農業協同組合による精米所の計画的な運営が実現できるようになり、ローンなどの貸付などを通じて利益還元も進んでいる。また、酪農協同組合は、品質改善を進め、付加価値製品の販売が増えたため、黒字化するようになってきている。また、有機野菜や乳製品の生産・販売を通じて、地道な啓蒙活動を行っている。またムトゥール郡内の農業用小規模灌漑貯水池の修繕により、国内外の避難民の帰還と再定住が最も遅れている地域の農地の復興が進んだ。</p>
(2) 事業内容	<p>&lt;活動1&gt; 協同組合の事業経営能力の強化と生産能力の向上  1-1 事業経営能力の強化  1) ワークショップの開催  カンタレ郡ワネラ村落ビハンガ農業開発協同組合（以下、ビハンガ組合）に対して、マネジメント、リーダーシップ、ビジネススキル、会計などを含む事業計画のフォローアップトレーニングおよび精米所運営のための機械のメンテナンス能力強化トレーニングを行った。更に理事会メンバーが変わったため、事業終了後の経営基盤をより安定化させるために、ワークショップで作成した事業計画を実際の経営に落とし込むためのビジネス・コンサルテーションを行い、計画するだけでなく、実行に移すことができるよう促進した。</p> <p>ムトゥール郡チェナイユール村落ムトゥール東酪農協同組合（以下、ムトゥール組合）は、理事会の主要メンバーが大きく変わらなかったため、主に付加価値製品の品質改善研修および農業・酪農研修に重点をおき、研修を行った。付加価値製品の大幅品質改善により、特にカード（水牛乳を個々の陶器に入れて古来からの製法で発酵させるヨーグルト）は市街地の店舗からも引きあいがあり、需要に供給が追いつかないほどとなった。</p> <p>ムトゥール郡バラティプラム村落の多目的協同組合（以下、MPCS）は本事業以前から長い歴史を有する組合であるが、本事業では精米所の部分の能力強化ワークショップを協力予定であった。しかし組織内の精米・米加工品事業とは別の部門（燃料配給サービス）での不正問題や元理事同士の訴訟争い等、様々な外的要因が発生し、暫定理事から新理事へ変わるタイミングが事業終了後にもちこされたため、本事業期間中は、暫定理事や従事スタッフに対するワークショップは実施しないこととした。またその間、本事業にかかるMPCSとの連絡および運営指導等は全て政府組合同局を通して行った。2019年8月に新しい理事会が発足し、現在は精米・米加工品事業を含む組織運営が徐々に再開している。8月以降のヤラ期は徐々に活動を再開しており、現在までに精米所では80トンの粳米を回収。また12月から250万ルピー分のローンの貸し出しを行い、マハ期の収穫時に粳米にて返済してもらう計画を立てているとの報告が新理事会からあった。</p>

## 2) 協同組合間のネットワークづくり

ビハンガ組合の組合員が以前より取り組んでいる有機栽培の畑を、ムトゥール郡でモデルファームを営む酪農協同組合の理事らが訪問した。また、モデルファームへビハンガ組合の組合員が訪問するなどの交流があり、現在も有機農業に関する情報交換やコンポスト資材のやり取りが続いている。

## 3) 精米所事務所を拠点とした農作物の市街地への出店

事業対象としている3つの組合のうち、ビハンガ組合では、1年次に精米所の敷地において事務所を設置した。2年次には、カンタレ郡の市街地に店舗を借りて販路を開拓する計画を立てていたが、新しい理事会メンバーに対して事業計画トレーニングを行ったところ、首都コロomboや、農産物の流通の拠点であるダンブッラ、トリンコマリー市街地およびカンタレ郡内の複数店舗や大口取引をする仲買人との販路が形成され、逆に供給が追いつかない状況となり、ランニングコストが発生する店舗を取って借りる必要性がなくなった。同時に、新理事会から、現時点では新理事らがより経営知識をつけ、組織をより強固にすることを最優先させたいとの要望があり、さらに事業計画に対するフォローアップのビジネス・コンサルテーションを行った。

## 4) 付加価値製品の生産設備の増強

ムトゥール組合の牛乳回収所兼直売所（以下、MCC）では、加工品の生産量・種類ともに増えるに従って屋内の生産スペースが狭くなっていったが、生産スペースを増築して拡張・改善したことにより、より衛生的な環境で付加価値製品を、より多く、効率的に生産することが可能となった。

### 1-2 組合のマーケティング能力の強化

ビハンガ組合では、首都コロomboにある有機野菜を扱う小売店に有機伝統米を卸すようになり、米の販売もコロombo、ダンブッラ、地元トリンコマリーなど各地に広がっている。

ムトゥール組合では、ネスレ社がトリンコマリー県から牛乳回収を撤退したため、新たな販売先を探すこととなった。何度か卸先が変わったが、ようやく全国区の乳製品販売メーカーとの直接契約が成立し、以前よりも高値<sup>1</sup>でミルクを卸販売することができるようになり、利益が出るようになった。

また、付加価値製品、特にカードの品質が大幅に改善したため、トリンコマリー市街地にあるオーガニック・マーケットや市内の店舗複数に卸すようになり、味がよいと評判になり、店舗だけでなく、一般の消費者からも引き合いが増え、需要に供給が追いつかない状況<sup>2</sup>となった。この販路を利用して、その他トフィーやアイスクリームをはじめ、モデルファームで栽培している有機野菜などの販売にもつなげていく計画である。

### 1-3 協同組合の生産能力の向上

#### 1) 付加価値製品の生産促進

乳製品の付加価値製品の製造装置を導入し、種菌を使ったヨーグルト製造研修を実施した。特にヨーグルトは、以前は小さな発泡スチロ

<sup>1</sup> 生乳1リットル当たり60ルピーから75ルピーでの買取りとなった。

<sup>2</sup> 雨季の大雨による病気の蔓延と乾季の干ばつによる飲水の不足などの二重苦で多くの乳牛・水牛が死んでしまい、材料不足が深刻な事態になっている。

ールの箱の中に電球を入れて発酵させるという原始的な方法をとっていたため、完全に発酵していない上、生産量が限られていたが、現在はインキュベータの導入により、以前に比べて大量生産が可能となった。

## 2) 技術講習の実施

有機農業啓発トレーニングおよび農業局による農業研修・コンサルテーション、畜産局による酪農コンサルテーションなどを行った。農業局の農業普及員はその時々蔓延する病気や害虫などの対応策や堆肥や液肥などの作り方、栽培している農作物の世話の仕方、乾季の水の効率的な使い方などの講習会を実施した。畜産局の指導員は、牛の世話の仕方や病気にかかった際の対応方法や薬品の使用方法などの講習を実施した。

## 3) 伝統米栽培の促進

伝統米の栽培を希望する農家を募集し、伝統米の種籾の配布を行った。その後、コロンボにある富裕層向けの有機野菜の販売店から引き合いがあり、有機栽培の伝統米の卸販売を開始することができた。<sup>3</sup>

## 4) 組合員への利益還元の制度づくり

ビハンガ組合では、毎シーズンごとに理事会が組合のキャッシュフローや資金状況を考慮して、一人当たりの貸付可能額および人数を決定し、組合の収益を組合員へのローンや種籾として貸し付けをお行っている。この制度により、現金による返済だけではなく、粳米での返済を受け付けており、精米所の粳米の確保に繋がるだけでなく、組合員の生産や生活の安定のために利用できる制度を整えることができた。また、MPCSでは2019年12月から農民に対してビハンガ組合と同様の仕組みでローンの貸付・粳米での返済を計画している。

## <活動2>安全な農作物や栄養についての関心を高め意識変革を促進 2-1 幼稚園における栄養改善プログラムの実施

ムトゥール郡内の子どもと保護者等を対象に栄養教育を行い、地域の栄養改善のきっかけづくりを行った。

2年次は、幼稚園の子どもと保護者を対象とした栄養啓発プログラムを実施し、さらに幼稚園教諭を対象とした栄養啓発プログラム研修を実施した。保護者を対象としたフォーカスグループディスカッション<sup>4</sup>を通じて、保護者の理解レベルを把握し、ディスカッションを通して行動変容につながる理解を促した。また栄養教育と同時に、地元の子どもの多くが罹患している虫歯や食中毒など、日頃の習慣による病気を防ぐため、手洗いや歯磨きなどの衛生管理の啓発トレーニングも行った。

## 2-2 牛乳回収センター／直売所を情報アクセスの導線として活用

MCCが学校の通学路や通勤路にも面していることから、地元住民が気軽に立ち寄り、乳製品を購入する機会を増やすためのイベント開催を、雨季が終わる4月中旬以降で検討していたが、テロが発生してしまったため、人を多く集めるイベントは国全体で自粛するようになり、イベントを行うことは叶わなかった。一方、MCCの目の前に検

<sup>3</sup> オーガニック認証を取得しているわけではないため、他の畑からの農薬の影響を受けない、確実に無農薬が謳える田んぼで取れたものだけを出荷した。

<sup>4</sup> グループ対話形式で自由に発言をしてもらい、日常生活や自分が持つ知識や考えなどを自然な形で引き出す手法。

問所が再び設置されたため、検問で止められたり、速度を落として通過したりするためか、立ち寄る顧客が増えた。さらにその検問所の警察官や海軍の警備兵などがMCCに寄るようになり、予想外の顧客が増えた。またカードの評判が広がっているため、わざわざムトゥール郡の市街地から買いに来る顧客も増えた。

また、MCCが生産するカードがトリンコマリー市街地にあるオーガニック・マーケットで取り扱われるようになった。このオーガニック・マーケットがせつかくバスターミナルのすぐそばにあるにも関わらず、看板が非常にわかりにくく、古いため、地元住民の認知度が非常に低かった。そのためMCC商品の宣伝を兼ねて、新たにオーガニック・マーケットの看板を刷新し、設置した。その後、地元の人も多く訪れるようになり、カードの売れ行きも上々で、今は需要に製造が追いついていない状況になっている。今後もこのオーガニック・マーケットを活用して地元住民への販売を行っていく。

### 2-3. 安全な農産物づくりのモデルファームの設置と農業機材・研修・コンサルテーションの提供

1年次の最後によく土地を取得して、2年次は、徐々に設備を整備し、耕作面積を広げていくこととなった。当初、井戸2基を設置する予定であったが、水不足の影響もあり1基目の掘削時に全く水が出ず、掘削を依頼した業者が水が出るまで責任を持って掘るという交渉を成立させた。数か所ボーリングを行った結果、最終的には、予算よりも低い支出で深井戸を2基設置することとなった。なお近隣の農場の浅井戸は、今年の乾季中の厳しい干ばつのために完全に枯れてしまい、まったく農業ができない状況に陥ったが、モデルファームでは2基中1基は枯れずに済み、乾季中も水の確保ができた。

モデルファーム内のコンポストヤード（コンクリート床の作業場）や牛舎、小規模灌漑設備（点滴灌漑やスプリンクラー）などは、組合および農業局や畜産局、本事業の派遣専門家と再度話し合い、より現場の環境や現場のニーズに即した形体で設置することとなった。

特にコンポストヤードでは、日本の有機農業専門家から教わった有機農業を実践する上で非常に必要な役割を果たす「高品質な完熟堆肥」の生産が可能となった。さらに、この高品質な完熟堆肥生産の取り組みは、トリンコマリー県の農業局でも話題となり、農業普及員や実習生を対象にワークショップを開催し、同専門家の名前から「TANABE 式コンポスト」と呼ばれるようになり、農業局の展示会などで発表されることとなった。また、定期的に農業局や畜産局の普及員がモデルファームを訪れ、果樹や野菜、家畜の研修・コンサルテーションを地元農家を集めて実施している。

また、首都コロンボで有機野菜やフェアトレード製品を扱う Good Market が策定したオーガニック認証を取得するためのトレーニングを、酪農協同組合の組合員および農業局の農業普及員に対して行った。

現在まで、落花生、トマト、ナス、ササゲ、いんげん、オクラ、すいか、とうもろこし、マニョクなどの野菜・芋・豆類を収穫し、加えて乳牛から搾乳したミルク、コンポストなどを主な収入源としている。現在、試行錯誤を繰り返しながら徐々に病害虫対策などに関して改善を図っており、今後は大手の野菜輸出業者との取引を成立させることなどにより、収益を増やせるよう鋭意努力している。

	<p>&lt;活動3&gt;再定住地域の灌漑貯水池修復</p> <p>ムトゥール郡内の再定住地域の一部において、農民組合の協力を得て灌漑貯水池5か所の修復・整備を行った。(2年間で9か所の小規模貯水池、2年次は5箇所)。貯水池の修復・整備を通じて、各貯水池を所有する農業組合が重機を手配して、堤防の再形成や、水門や洪水吐などの土木工事、農業用水路の拡張などの工事や工程管理を自ら行い、主体的な事業参画を促すことができた。</p> <p>また、今事業期間内の乾季はほとんど雨が降らず深刻な干ばつ被害が出ていたため、すでに組合が穴だけ掘っていたベリヤラパットウライクラムと、貯水池の堤防を強固にするために張った芝が定植せずに枯れかけていたプリクティナクラムに農業用井戸を設置した。どちらも近隣の浅井戸が枯れているなか、貯水池のすぐそばで掘削していたため、十分に水が出て、干ばつの中、農家だけでなく、家畜や野生動物などにとっても貴重な水源となった。</p>
<p>(3) 達成された成果</p>	<p>&lt;活動1&gt;協同組合の事業経営能力の強化と生産能力の向上  &lt;成果1&gt;協同組合の事業経営能力が強化され、生産能力が向上する。  【指標①】  組合が施設運営による収益を持続しながら組合員(農家・酪農家)に利益を還元する。</p> <p>ビハンガ組合では、組合員への利益還元制度について前述した通り、貸付制度の定期運用が既に確立し、地域経済の安定的な発展に貢献していると言える。</p> <p>多目的協同組合(MPCS)については、活動内容の項目でも記載したとおり、本事業期間中の精米・米加工品事業での能力強化ワークショップは実施しなかった。しかしながら、この組合は政府組合局の直轄下にあり、東部州とトリンコマリー県の双方の組合局長が現状の改革を必須と考えており、新理事会発足後、精米所の運営については責任を持って元の状態以上の稼働に戻すとの意思表示をしている。</p> <p>ムトゥール組合は、全国区の乳製品会社との取引や付加価値製品の品質向上に伴う市街地での販路開拓、および有機野菜を日常生活に取り入れる消費者層の拡大により、5月から収益が出るようになった<sup>5</sup>。ただし、後述の気候変動の影響により、MCCのミルク回収・販売の絶対量が伸び悩むという課題は依然として残されている。</p> <p>本年度は、各事業地域とも例外なく厳しい気候変動の影響を受けたが、モデルファームにおいては、乳牛は順調に繁殖し、有機野菜の栽培についても、数々の病害虫などの困難を乗り越えて軌道に乗つつある。モデルファームの成功例から学ぶべく当地域を見学を訪れ、また実際にハウス・路地栽培やコンポスト製造工程への参画を希望する組合員農家が着実に増加している。ただし、今年の雨季はスリランカ全土の広域にわたって豪雨が発生し、ムトゥール郡では家畜に病気が蔓延し、続く乾季の厳しい干ばつで多くの家畜が死んでしまい、地域全体の家畜数が減少した。また、飲水や餌となるわずかな草すら枯れたため、生き延びた乳牛・水牛の搾乳量も激減した。</p> <p>【指標②】  組合が事業経営計画を定期的に行い、自己評価を行い、経営が持続</p>

<sup>5</sup> 5月以降、毎月約4万ルピーの収益が出るようになった。ただし供与施設・機材の減価償却費は含まず。8月以降は、5月以前の損失分や酪農家・取引業者等への未払い分の精算を進めている。

化していく。

ビハンガ組合の事業経営に関しては、2018～2019年にかけてのヤラ期・マハ期とも籾米の回収と精米した米の販売が順調に進み、両期ともに黒字<sup>6</sup>を出すことができた。形成した販路の需要に供給が追いつかないことも出てきたため、新理事会はさらなる組合員の募集と既存組合へのローンや種籾の貸付サービスなどを通じて、米の回収量を確保するため、定期的に理事会を開き、問題が起こった場合はコンサルテーションを受けたビジネスコンサルタントや弊団体に適宜相談し、組合運営を行っており、今後も事業を安定的に行っていく体制にある。

MPCSでは現在、組合局および新理事会が今後の事業運営計画を立案中である。今までのところ80トンの籾米を回収しており、随時買取を進める予定である。また12月より組合局からの指導もあり、ビハンガ組合同様に農民へのローンの貸付を全体で約250万ルピー検討している。

MCCとモデルファームの両方を運営するムトゥール組合は、主に付加価値製品の品質改善研修および農業・酪農研修に重点をおいて組織強化を図った結果、売上が伸びて5月以降には収益を出し続けている。

<活動2>安全な農作物や栄養についての関心を高め意識変革を促進  
<成果2>生産者（協同組合）と消費者に、農作物や栄養、健康についての関心が高まる。

【指標①】

啓発対象グループのうち、栄養や衛生管理の重要性を理解し、意識が変化する母親／保護者の数が増加する。

ムトゥール郡内の5つの幼稚園において、様々な居住地、民族、カーストグループに対し栄養や衛生管理などに関するトレーニングおよびフォーカスグループディスカッションを行った。一方的にトレーニングを行うのではなく、グループディスカッションによって、保護者の関心度が増したり、トレーニングへの参加意識が向上するなどの効果が見られ、トレーニング後の調査では、調査対象となった保護者のうち80%が栄養や衛生に関する知識の向上が見られた。

また、対象グループの理解と意識の高まりを確認できただけでなく、特にカーストが低く、遠隔地にある地域の保護者の多くは9年生ぐらいまでしか学校に通っておらず、保護者の理解レベルや子どもたちの栄養状況については他の地域と大きく状況が異なっていることも、活動を通して明らかになった。他方、市街地に近い幼稚園は保護者や子どもたちの理解レベルは高く、トレーニングを行った後の子どもたちへのインパクトは保護者も驚くほどであった。

栄養に関する知識については、栄養失調や貧血など、基礎的な知識についてはあるものの、ビタミンなどの話になるとほぼ知識がなく、継続的な指導が必要であることがわかった。しかし、子どもたちに対する歯磨きや手洗いの指導は、たった一度のトレーニングで、その後配布した石鹸と歯ブラシのセットを使用し、帰宅後、家族に幼稚園で習ったやり方を家で披露し、習慣的に石鹸を使用して手洗いと一日2回の歯磨きをするようになったと、複数名の保護者から報告があっ

<sup>6</sup> 2018/2019 マハ期・2018年ヤラ期収益合計：約68万ルピー。ただし供与施設・機材の減価償却費/現在、融資を受けている組合局へのローン返済費は含まず。

た。栄養教育について、今後も地道な継続指導が必要であることが、地元の衛生局や保健省の医師とも共通認識である。今回、保健省の医師がトレーニングに訪れた1つの幼稚園では子どもたちの栄養状態が良くない、ということを経験者が地元行政に報告し、その結果、その幼稚園では朝食（主に豆類）が支給されるようになったとの報告を受けている。

【指標②】製品の売上が前年より5%増加する。

これまで、事業地において最も伸び悩んでいたのが主に酪農製品を取り扱うムトゥール組合であったが、乳製品の付加価値製品トレーニングの後、徐々に製品改良を重ねたことで、また生産設備を増強したこともあり、5月以降は売上が倍に伸びた。

【指標③】モデルファームより、野菜・果物が生産・出荷される。

前述の通り、落花生、トマト、ナス、ササゲ、いんげん、オクラ、すいか、とうもろこし、マニョクなどの野菜・芋・豆類を収穫し、加えて乳牛から搾乳したミルク、コンポストなどを主な収入源としている。

モデルファームの農作物は、現在、MCCやムトゥールの市街地、トリンコマリーの市街地で収穫があった際に随時販売を行っている。

有機栽培を特徴としているが、当初、トリンコマリーでは質よりも安い値段で買い求める人が多いような意見もあったが、実際に販売をしてみると、多少値段が高くても有機野菜に関心がある人がある程度いることもわかってきた。

<活動3>再定住地域の灌漑貯水池修復

【指標①】小規模貯水池が修復された後、修復経験を基に農民組合が追加工事（用水路をさらに延長する等）を行う。

それぞれの貯水池を管理する農民組合の協力を得て、小規模灌漑貯水池および農業用水路の修繕を行った。加えて、2箇所の貯水池では農業用井戸の設置も行い、干ばつで周りの井戸が干上がる中、貯水池のそばに井戸を設置したため、水を確保することができ、貯水池の工事や放牧している牛や水牛、及び周辺の住民の沐浴などの生活用水、また野生動物の飲水などに利用された。

修復工事はすべて貯水池を使用している農民組合が重機の手配を行ったり、土木作業を手分けして行っていた。また農業用水路の拡張については農民たちで話し合い、どこまで伸ばすかなど、話し合いの上で決定し、農民組合内での結束を取り戻すきっかけとなっている。また他の貯水池よりも先に工事に着手した農民組合は、その知識をその後工事を始める組合に情報を共有して、お互いに支援し合うなど、組合間での協力も見られており、現在行っている貯水池の工事でも今事業で貯水池修復を行った農民組合が技術サポートを行うなど、確実に農民の間で知識の共有と蓄積がなされている。

【指標②】対象の小規模貯水池を利用した耕作による収穫が、全体の5%以上増加する。

	貯水池名	修復前 作付け面積 (ヘクタール)	修復後 2019年度雨季 作付け予定面積 (ヘクタール)	作付け 面積の 増加率
	シンナベンブクラム	35	55	57%増
	ヴェランクラム	60	70	17%増
	カンナンクーダ	31	48	55%増
	ペリヤラパットウライクラム	30	46	53%増
	プリクッティナクラム	0	40	N/A
	合計	156	259	66%増
	<p>今年次行われた工事に対する収穫の成果は、この10月後半から始まっているマハ期（10月～2月頃）に出る予定で、現在2月ごろの収穫に向け、貯水池の修復により拡張した農地に種籾が撒かれた。工事完了後の作付け可能面積は66%と大幅に増え、収穫についても大幅増が期待されている。</p>			
(4) 持続発展性	<p>&lt;活動1&gt; 協同組合の事業経営能力の強化と生産能力の向上</p> <p>ビハンガ組合の運営にあたっては、米ビジネス業界の特質と政府の価格統制により、その時々々の収穫量や市場価格によって損益が大きく変わるため、事前の事業計画が精米所運営に大きく影響する。このため、シーズンが始まる前に、理事会が集まり、買取量や買取価格のターゲットなどを決定するなど、今まで行ってきたトレーニングが十分に生かされている。現行組合法の制度上、2年に一度、理事会メンバーが交代になるため、新理事会メンバーへの引き継ぎが今後の持続継続性のポイントとなる。また、現在融資を受けている組合局へのローンの返済も順調である。事業終了後もモニタリングは継続していく。</p> <p>MPCSは、先述の通り、8月によりやく新理事メンバーが決定し、組合局の指導のもと今後の精米所の運営計画を立案中である。組合局からも、日本の支援で建て上げた精米所施設・機材が十分に活用されない状態になったことについての謝罪があり、今後精米所が以前のように地元の農家のために活用されることが待たれる。事業終了後も、組合局とともにモニタリングを行う。</p> <p>ムトゥール組合は、これまで人事の問題などで、何度も経営の危機に瀕してきたが、今年は家畜の病気や厳しい干ばつで大きく牛乳の搾乳量が減り、さらに他の回収業者との取り合いになり、厳しい市場競争に巻き込まれた。しかしながら、卸売のための大量一括販売の買取価格が上がったことや、付加価値製品の品質改善、また製造量を増やすことができたため、付加価値製品の販売による収益が増えた。これらにより、徐々に安定的に黒字を出せるようになってきている。内戦の影響によって働き手世代の人材が未だに不足していることから、経営体制は未だに不安定な部分はあるが、設立当初に比べ、紆余曲折はあるものの少しずつ状況が改善している。今後は、新たな販路を探すと同時に、MCCの牛乳回収量に反映する地域全体の酪農生産量を増やすための技術向上と、地域内外の消費者層の支持を獲得するための創意工夫が必要となってくる。</p> <p>&lt;活動2&gt; 安全な農作物や栄養についての関心を高め意識変革を促進</p> <p>栄養教育については、今後モデルファームや酪農協同組合の運営を通じて、安全な農作物の普及を促進するために、トリンコマリーのオーガニック・マーケットなどで地道な啓蒙活動を続けていく。</p>			



またモデルファームでは、コロンボにある Good Market のオーガニック認証を取るために現在準備を進めており、このオーガニック認証を得ることで、地元のオーガニック・マーケット、高級リゾートホテル、及びコロンボのオーガニック市場などへの販売の可能性が生まれる。

さらに、ムトゥール近辺はもともと豊かな土壌を有していたが、粘土質であるために野菜の栽培が限られていたり、多くの耕作地では長年使用してきた化学肥料で土地が痩せてしまっているため、完熟堆肥や籾殻くん炭などの有機農業資材の需要も見込まれている。今後、モデルファームを発信基地として、これらの資材の生産・供給も行っていく予定である。

### <活動3>再定住地域の灌漑貯水池修復

灌漑貯水池の修復は、ほとんどの住民が農業を営む再定住地域の住民にとって、非常に大きな正のインパクトがある。なぜならば、気候変動で、ここ数年は、雨季に極端な大雨による堤防や用水路の決壊、乾季には極端な干ばつが襲う事態のため、灌漑貯水池の修復はそれらの自然災害変動を緩和するからである。各地の農民組合が貯水池の修復を待っており、その需要は常に高い。今年度の修復対象であったプリクッティナクラムは、当初は貯水池も農地も完全にジャングルに覆われていたため、貯水池の修復工事と同時並行で、農民は各自の農地を覆う藪や木を取り払い、農地の復興に尽力した。このため、この11月からの雨季から、2005年以來、14年ぶりに初めての稲作を復興できることとなった。

また、この事業で修復を行った農民組合員が、現在行っている事業の修復工事の技術支援を行うなど、徐々に土木工事や灌漑・治水の知識・技能を持つ農民が増えている。今後、これらの農家が中心となって、貯水池の維持管理を主導するようになることが期待される。